

御年90歳

## 長岡図書館は3月31日(木)をもって休止します

☎ 中央図書館 ☎ 0558-76-5566

長岡図書館は、市の文化財となっている旧長岡南小学校講堂(大正14年竣工)の建物で開館してきましたが、改修が困難であり耐震強度の点から安全な施設とはいえなため、平成27年度末(平成28年3月31日(木))をもって、図書館としての使用を休止することとなりました。

長岡図書館をご利用の皆さんには大変ご不便をおかけします。4月からは、中央図書館・葦山図書館に資料を移して、皆さんのご利用をお待ちしています。



かつては講堂として使われていた長岡図書館

## 図書館だより

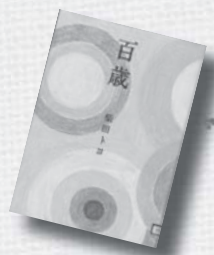
今月のおすすめ ~歳を重ねる~

年の初めに、長寿の先達の言葉に触れてみませんか。前向きに、生き生きと生きるヒントが詰まっているはず。



『一〇三歳になってわかったこと ~人生は一人でも面白い』  
篠田桃紅(著) / 幻冬舎

今も第一線で活躍する世界的美術家の著者が、時に優しく、時に厳しく、人生の生き方、楽しみ方を伝授。【葦山】



『百歳』  
柴田トヨ(著) / 飛鳥新書

150万部突破のベストセラー「くじけないで」に続く第二詩集。涙の味を知っている人の人生観から生まれたさり気ない機知が、心をやわらかく揉みほぐしてくれる1冊。【長岡】

### ■ホームページで貸出延長

これまで窓口か電話でしかできなかった貸出期間の延長が、ホームページや館内の利用者用検索機からでもできるようになりました。予約のない本について1回のみ延長ができます。このサービスを利用するためにはパスワードが必要です。手続きは各館カウンターでお尋ねください。



図書館カレンダー  
モバイル版QRコード



- 『明日をつくる十歳のきみへ 一〇三歳のわたしから』日野原重明(著) / 富山房インターナショナル【中央】大切なことは「ゆるしの心をもつこと」と「人のために自分の時間を使える大人になること」。
- 『あら、もう102歳 俳人金原まさ子の、ふしぎでゆかいな生き方』金原まさ子(著) / 草思社【中央】49歳からの俳句、100歳からのブログ。
- 『97歳。いくつからでも人生は考え方で変わります』吉沢久子(著) / 海竜社【長岡】今ある幸せを深く味わう。一人暮らしを楽しむ工夫や心の持ち方のヒントが満載。

図書館ホームページ <http://www.izunokuni.library-town.com/> ☎ 中央図書館 ☎ 0558-76-5566

1月の休館日  
中央図書館 1日(金・祝) ~ 4日(月)、11日(月・祝)、18日(月)、25日(月)、29日(金)  
葦山図書館 1日(金・祝) ~ 4日(月)、6日(水)、11日(月・祝)、13日(水)、20日(水)、27日(水)、29日(金)  
長岡図書館 1日(金・祝) ~ 4日(月)、11日(月・祝)、12日(火)、18日(月)、25日(月)、29日(金)



2月からスタート

## 火災の発生などを同報無線でお知らせ

☎ 市役所危機管理課 ☎ 055-948-1482

2月1日(月)から、建物火災などの発生および鎮火を市内全域に同報無線でお知らせします。

放送する時間帯 / 7:00 ~ 22:00

※発生した火災の延焼の危険、周辺への影響が大きいと判断した場合には、時間外であっても放送します。  
※防災ラジオおよび個別受信機からも音声の流れます。

## 文化財通信

その127

### 葦山反射炉で作られた南部産銃鉄製カノン砲 (その4)

☎ 市役所文化財課 ☎ 055-948-1428

葦山反射炉で製造された南部産銃鉄製18ポンドカノン砲は、砲身と火門の鑄開(くり抜き)の工程を経て、万延元年(1860)5月16日には一通りの完成を見ました。完成したカノン砲を次に待ち受けるのは、砲弾の発射に必要な耐久性を備えているかどうかを確認するための「試射」です。

当時の「日記(万延元年)」(公益財団法人江川文庫蔵)によれば、同年5月18日朝、試射のためにカノン砲の移動が開始されています。この日記からは、どこで試射を行ったのかはわかりませんが、八つ時(午後2時ごろ)にカノン砲の据え付けが完了したと書かれていることから、重量物であるカノン砲を半日程度で移動・設置できる、比較的近い場所だったと考えられます。

試射は、火薬の量(装薬量)や砲弾の種類を変えながら、計6回行われました(表参照)。

回数	装薬量	砲弾の種類
1回目	350 匁(約 1.3kg)	空砲 1 発
2回目	575 匁(約 2.2kg) 1/4	空砲 1 発
3回目	770 匁(約 2.9kg) 1/3	壱弾 1 発
4回目	1貫 150 匁(約 4.3kg) 1/2	壱弾 1 発
5回目	770 匁(約 2.9kg) 1/3	弐弾 1 発
6回目	1貫 150 匁(約 4.3kg) 1/2	弐弾 1 発



「日記(万延元年)」5月18日条 (公益財団法人江川文庫蔵)

砲手を担当したのは、江川垣庵公の高弟のひとり、砲術家であり大砲鑄造技術者でもあった友平栄(壬生藩士)でした。友平は、このカノン砲の鑄造事業のため、幕府の命を受けて葦山反射炉に向向していたのです。

八つ時から開始されたこの日の試射は滞りなく進み、その結果、カノン砲の砲身はまったく問題ない仕上がりにあることが確認されました。試射終了後、夕七時半(午後4時ごろ)には、参加した係の役人一同、反射炉へと引き上げていきます。「反射炉御用留年々用」(公益財団法人江川文庫蔵)によれば、試射の成功は、早速幕府勘定所へと報告されています。

さて、4月4日の鑄型製作開始から試射が行われた5月18日まで、都合44日間かけて完成した南部産銃鉄製18ポンドカノン砲は、この後江戸へと運ばれることとなります。(その5へ続く)

試験ということで、装薬量は最大でも半分に抑えられていますが、この時、